

「小出裕章さん講演会」

2023年10月23日

JR根岸線の磯子駅、洋光台駅、港南台駅、本郷台駅、大船駅の5つの駅の沿線に6つの「9条の会」がある。それらの会を線で結び「根岸線沿線九条の会連絡会」を結成した。6つの会が力を合わせて、毎年、300人くらいの聴衆が集まる講演会を行ってきた。

今年10月14日、あーすぷらざ・プラザホールで講演会を行った。初めに地元の太鼓集団「荒武者」が演奏をし、続いて、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏に「原発と憲法9条～原発回帰は憲法改悪への道～」と題した講演をしていただいた。小出氏は立ったまま、スクリーンに図表を映し出し、パワーポイントを利用し90分間、分かり易く、とうとうと熱弁を振るわれた。会衆は皆、感動をもって聞き入った。

小出氏は、「幸い」とは出世、有名、金持ちになることではなく、毎日、食事ができ、穏やかな生活ができることで、戦争はその全てを破壊するということから話し始めた。そして、専門の原発について、話を進められた。原発は膨大な放射能を生み、それを抱えながら運転する機械である。機械は時に故障し、事故も起こす。人間も必ず誤りを犯す。危険だから都市圏を避け、過疎地に作られた。福島第一原子力発電所は破局的な、未曾有の事故を起こした。広島原爆の168発分の放射能が東北、関東の地域に放出された。「原子力緊急事態宣言」は12年経った現在も出されたままで、100年経っても解除できない。

ロシアは国境を越えてウクライナに武力攻撃を仕掛けた。この侵略戦争には反対であるが、一方的な非難ではなく、歴史の流れの中で捉えることが重要である。ロシアに対する米国、NATOの軍事的圧力があつたことは否めない。また、米国がアフガニスタン、イラクを攻撃した時、日本は自衛隊を派遣して、米軍の市民殺戮を黙認した。イスラエルのパレスチナへの侵略を米国は支持し、日本のマスコミも黙認している。戦争に反対するなら、全ての戦争、軍事行動に反対すべきである。戦争をすれば、庶民が犠牲になり、その一方で軍需産業が儲かる。ウクライナとロシアの犠牲の上で、実は、米国の軍需産業が大儲けをしている。米国こそが戦争の元凶と言えるのではないか。

戦争になれば原発が標的になり、攻撃されれば打つ手はなく、放射能被害は測り知れない。政府は原発にミサイル攻撃を受けた場合の被害想定について、検討も議論もしてなく、仮定すらしていない。敵基地攻撃能力などと言うが、ミサイルを心配するなら、まずは原発を止めることである。これまで、政府、電力会社、マスコミなどは「安全神話」を振りかざし、原子力行政を進めてきた。事故を起こしても誰一人責任を負わず、会社も倒産しない。原発を止めないのは、石破茂議員が、「核を持つべきだとは思わないが、核を作ろうと思えばいつでも作れる」と発言したように、プルトニウムを保持しておく必要があるということである。彼らは「原子力村」ではなく「犯罪集団」の「原子力マフィア」だ。

岸田政権が目指しているのは、第一が軍拡である。集団的自衛権を行使できる安保法制を強行採決し、米軍の下で戦争のできる国にするため、軍事費を2倍にし、琉球列島に基地を次々に建設している。第二は、原子力への回帰である。戦争と原子力は両立しないが、金に眼がくらんだ原子力マフィアは、それを無視している。

憲法9条は、武力の行使を放棄し、交戦権を認めないと規定し、憲法前文は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」と謳っている。今、為すべきことは軍事同盟と軍隊の廃止、軍需産業の廃絶を目指し、「戦争一切禁止」「原発即時全廃」であると結ばれた。真っ直ぐな講演だった。